

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1397号 令和5年2月15日号

神戸市の大規模再開発が進まない理由 ……………	本紙編集部…………	1
韓国の国内でチュチェ団体が暗躍中 ……………		2
ドイツ情報部の職員がロシアのスパイだった ……………		3
東大阪市下の、ある中学校教育現場から〈15〉 ……………		4
読者投稿 鯛は頭から腐る ……………		4
デイサービス難民が増える予感 ……………		5
奈良公園の鹿は大和朝廷直系 ……………		6
台湾は「中華連邦」を模索する ……………		6
本部・地方事務局活動報告 ……………		7



2月11日 奈良・橿原神宮

本社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com

賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)

ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社

編集長/谷田 透

3月の発行はお休み致します

神戸市の大規模再開発が進まない理由

本紙編集部

神戸市の玄関と言えば「三宮」である。ＪＲ、阪神、阪急、地下鉄、モノレール（ポーターライナー）などの鉄道が集中し、デパートや商店街、地下街が広がるエリアである。三宮は終戦後、三国人同盟が進駐軍の威光を背景に支配した焼け跡であり、ヤクザや朝鮮人、特攻崩れや流れ者が入り乱れて利権争奪した歴史を持っている。そのまま東京オリンピックと大阪万博の時代まで、当局は見て見ぬ振りで繁栄させてきたのである。

ところが、大阪万博から高度経済成長期の速度が速まり、「もはや戦後ではない」と政府が考え始めた。この頃の政府方針で焼け跡・闇市の利権が残る大都会の駅前地区は再開発の指定を受け、次々と立ち退き交渉が始まっていったのである。大阪梅田や神戸三宮は代表的な地区であり、一筋縄では解決しない場所でもあった。

三宮の場合、義侠心の強かった山口組三代目の田岡組長が先頭に立って再開発の旗を振った。そうなれば、焼け跡・闇市の利権を踏襲している連中は従うほかになく、サンチカタウン、センター街、サンプラザ、センタープラザなどと次々に完成していった。

あれから五十年、神戸市は内閣府の後押しを受けて新しい三宮の開発ビジョンを打ち出した。当時、田岡組長の力を借りて完成した地区のシンボルの再生である。これは同時に、阪神大震災で倒壊したサンプラザ（写真）やセンタープラザの建て替えも含まれた。

三宮再開発は全事業で三千億円以上の予算規模で、五年後には大枠が見えてくる予定だった。だが、震災で倒壊したサンプラザ等の高層階を再建しないまま、テナント



（区分所有者）のオーナーに未払い分の共益費を請求していたから話がこじれた。両者が共に行政訴訟を起こして最高裁までもつれ込み、結論が出ないまま高裁に差し戻されそうな雲行きになってきた。鶏と卵の議論になっており、どちらが先に金を出すかという我慢比べ状態でフリーズしてしまつたのだ。

元を正せば、この周辺でテナントのオーナーという区分所有者は大半が焼け跡・闇市の利権保持者の縁故者であり、話がこじれてからは「共益費未納」のまままで所有権が売りに出されている。再開発の核心的な部分であるサンプラザが建て替えになれば莫大な補償金や移転補助金が出るだろうと宣伝し、業者間で権利が売買されて回り回っているらしい。

神戸市の久本市長は、予算さえ確保できれば強引にでも再開発を進めたいようだが、政治的に再開発を議論しなければならぬ議員や幹部職員たちは、それによって昔からの利権構造にメスが入り、長年慣習的に続けられてきた得体の知れない個人や団体に対する補助金が暴露され、議会と行政の不作為が追及されることを恐れているようだ。焼け跡・闇市からの利権保持者が生き残っている場合は少なく、ほとんどは利権継承者に過ぎない。つまり、枯れ尾花を幽霊だと思つて恐れているだけなのだ。

全国的に駅前再開発が進まない原因の中に、焼け跡・闇市の利権継承と役所の事なかれ主義から生まれた訳の分からない補助金という悪事に手を染めている負い目があるのは確かだろう。戦後八十年近く経過した今も「もはや戦後ではない」と、言い続けなければならないのだろうか。

韓国の国内でチュチエ団体が暗躍中

北朝鮮の金日成が主張した自主（チュエ）思想を学んだ左翼たちは、日本でも韓国でも「チュチエ団体」と呼ばれている。中共から資金と命令を受けている所もあれば、平壤から直接の資金と命令を受ける所もある。どちらにしても、平和と安定の敵であることは確かだ。

韓国にチュチエ団体で「蠟燭連帯」と呼ばれる左翼市民グループがあるが、ここが最近になって「尹錫悦（ユンソギョル）政権は退陣せよ」というデモを盛んに呼びかけ始めた。呼びかけを受けているのは、ソウルなど大都会の進歩的（？）中高生なのだ。

この団体は、朴恩恵大統領を弾劾する目的のデモを展開するために、当時の民主労働党が大都会の進歩的・中高生に作らせた団体である。民主労働党が「利敵団体」として解散命令を受けて看板を「統合進歩党」に掛けて替えると、すぐに「蠟燭中高生市民連帯」という団体名を名乗って「蠟燭デモ」を企画し始めた。

ソウルでは、この団体が主催者となって北朝鮮万歳を叫ぶ有名人を講師にした集会を開催し、そこにソウル市から後援と補助金を引っ張って問題化させている。まるで我が国で開催された「表現の不自由展」とそっくりである。

韓国では、前大統領の影響力を残しておかねば叩き潰される危機感を持つているチュチエ団体が多く、それらが尹錫悦大統領と西側友好派に対して進歩的・中高生を洗脳して反対デモを繰り返している。日本国内にある朝鮮学校と交流を進めようと呼びかけているのも、韓国のチュチエ団体であり、関係している日本国内の左翼団体である。



北朝鮮を「この世の楽園」と宣伝していた昭和三十年代、四十年代のチュチエの歴史を、我々も韓国人も決して忘れてはならない。

日本の世論の一部にチュチエ団体と関係する声があり、それらは韓国と在日韓国人の悪辣さだけを殊更に宣伝して嫌悪感を煽るものがある。実は、これらも要注意で、愛国者という自己宣伝の裏にチュチエ団体の陰がある。知らずに騙されていたら大変だ。

「韓国社会矛盾の根は分断にあり、それは米軍政によって反共独裁政権が作られたことによる。対日清算の失敗も、歴史の進歩の妨害も、全ては韓国保守派にある」と言うのが平均的なチュチエ団体の主張だ。反米と反日で踏み絵をさせるのも共通で、親米、親日なら「民族反逆者」と呼ぶのも共通している。日本でも、在日朝鮮人が韓国籍になろうとして登録を切り替えようとすれば、チュチエ団体が家に押し掛けて来て「ミンジョク・パニャクチャ！」（民族反逆者）と罵るのだそうだ。

また、韓国の「全教組」はチュチエ教師の集合体なので、学校で生徒たちが知らず知らずに洗脳されてしまう事実も報告されている。真面目で勤勉な子どもほど、全教組の教師から洗脳されやすいそうだ。

尹錫悦政権はまだ足場が固まっていないということだが、安全保障の優先順位として、現時点で日本は尹錫悦政権を応援してやらねばならないようだ。軽はずみにチュチエ団体や関係する自称保守系団体に騙されて、我が国の安全保障を危うくするようなことがあってはならない。

ドイツ情報部の職員がロシアのスパイだった

ドイツ連邦情報局の上級職員が、ロシアに国家機密を売り渡していたことがニュースになっている。

ドイツの同盟国から送られてきた国家機密情報にアクセスできる立場を利用し、それらをロシア情報部のスパイに売り渡していたカルステン容疑者が逮捕され、ドイツでは「国家反逆罪に相当する」と厳しい意見が溢れている。どうやらロシア情報部は、現状のウクライナ戦争に関係する世界からの孤立化と西側先進国の連合軍攻撃を国家消滅の危機として、買取できそうな西側先進国の軍部や情報部の職員に猛烈なアタックを始めている。まずは仲良くなり、ご馳走し、お土産を渡し、金銭を受け取らせ、女性を紹介するというお決まりのパターンで攻勢をかけているらしい。

カルステン容疑者がロシアに売り渡した情報の中には、同盟国のシークレット警備情報も含まれている。戦端軍事技術情報や産業機密情報もかなり多く含まれている。アメリカもイギリスもチャンネルやコードを緊急に変更している。日本の情報がどれほど含まれていたかは残念ながら不明である。

西側同盟国のロシアに対する警戒レベルはレッド（最高）になっており、なりふり構わぬロシアのスパイ工作が進められているようだが、それに落とされる西側軍部や情報部の職員がいることで新たな危機感が惹起されている。つまり、ロシア人、タタール人、コサック人、ベラルーシ人、チェチェン人などと何らかの関係がある職員を片っ端から疑って洗わねばならなくなったのだ。自衛隊でも、韓国籍や中国籍の妻や恋人を持つ職員は、調査隊が外部の役所の協力を

得て洗っていたのと同じことが起こっているのだ。

ドイツは第二次大戦中のユダヤ人に対するナチスの虐殺がトラウマとなり、戦後のドイツ国民は生まれながらに十字架を背負わされた。その負い目を持ったまま、NATOの主要国としてソ連、ロシアに向き合った。実はロシアは、世界最大のアシユケナジー・ユダヤ人の母国なのだ。ユダヤというキーワードでドイツの軍部や情報部の職員に接する時、それは遺伝子的に別の威力を発揮することだろう。



ドイツ連邦情報局

我が国でも以前、川重の潜水艦試験航海の艦長が入り浸っていたスナックが神戸三宮に有り、その店のママが中共解放軍の上級スパイだったことがあった。元海上自衛隊の幹部だった艦長は、世界の軍事情勢に詳しいママと飲みながら話すのが楽しかったそうだが、ママの方は楽しかったただけのはずはない。艦長はこの店で、いつも数千円だけの支払いで良かったそうだが、中共解放軍も案外ケチである。結局、海上自衛隊の現役幹部が事態を收拾したそうだが、ママは翌日からぶつり姿を消した。このスナックが公明党の議員たちのたまり場だったことが気になったが、店が無くなってママが消えたのだから話は終わった。

戦時中のトラウマを国民教育で子どもたちに叩き込んだ国では、軍部や情報部の職員になっても、心の中に深く刻まれた何らかの影が出来ている。この恐ろしさは、我々日本人もしっかり認識しておくべき課題である。「平和ボケ」という言葉で誤摩化してはならない。

東大阪市下の、ある中学校教育現場から 〔十五〕

ご好評にお応えして、教育正常化にむけて奮闘される良識派のH先生による、市下中学校の学年集会での講話を掲載させて頂く。

■令和五年一月十三日（金）

おはようございます。一回目の学年集会から話していますが、ウクライナの戦争がいまだ終わりません。今から七十八年前にもロシア、当時はソ連という名前でしたが、その国に攻められた事がありました。それはどこの国かわかりますか？（反応なし）私たちの国、日本です。しかも当時は日ソ中立条約、つまり日本とロシア・ソ連はお互いに攻めてはいけませんよという約束が有効であったにもかかわらずです。

終戦記念日、つまり戦争が終わった日は何月何日かわかりますか？（反応なし）それは八月十五日です。しかし、ロシア・ソ連は九月の初めまで日本を攻め続け、北海道の目の前にまで迫ってきたのです。そして今も北方領土を占領し続けています。

先日、映画を観てきました。「ラゲリから愛をこめて」というタイトルで、嵐の二宮君が主演していました。



（写真下を見せる）この映画はロシア・ソ連のシベリアという極寒の地に連れていかれ強制労働をされた山本幡男さんという実在の人物がモデルになっています。厚生労働省の調べによると、約六十万人が

連れて行かれ、強制労働させられ六万人が命を落としたとされています。そんな厳しい状況の中でも、山本幡男さんは希望をうしなわず、人の役に立つという信念を持ち、一生懸命働き周囲の人を和ませ、多くの人々に勇気を与えたという話でした。

他にも多くの例があり、今はウズベキスタンという国になっていますが、当時ロシア・ソ連領だったところでも日本人は強制的に連行され、強制労働させられました。そんな状況でも希望を持ち続けて人の役に立つという信念を持って一生懸命働き、首都タシケントにナヴォイ劇場という美しく立派な劇場を完成させました。（写真下を見せる）



後にウズベキスタンの首都タシケントに大きな地震が起こりましたが、ナヴォイ劇場は無事であり、びくともせず、地元の人々の避難所になったそうです。このことにウズベキスタンの人たちは感動し、ウズベキスタンの子どもたちは「日本人のようになりなさい」と教えられているそうです。

襟をただされる思いですが、希望を持ち続け、人の役に立つという信念は、これほど人を強くさせるのかと思えました。これからもその信念を忘れず生きていきたいのです。そのためにもしっかり本を読み、勉学に励んでいってほしいなと思えました。ありがとうございました。

読者投稿

鯛は頭から腐る

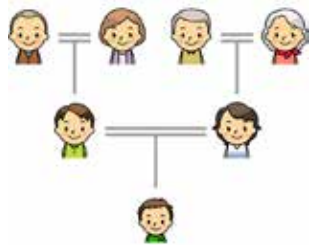
立派な組織体の場合、上層部や執行部の腐敗によって崩壊する。これは歴史が証明して

いる。逆に、イワシは腹から腐る。腹が腐れば身も腐る、そして蛆がわく。

今の世界は、立派な一流国の指導層がどうにかなってしまったのかと思えるほど腐敗と墮落が進んでいる。いずれ一流国は方向性が見えなくなり、腐った頭が全体の身を滅ぼす。

昔、国士館を創立した柴田徳次郎氏は「水で威張った琵琶湖の鮒も 津波の塩水何とす」と言われたが、ロシアも中共も「巨大な鮒」ではないのだろうか。NATOやG7などが呼びかける世界の騎兵隊という津波の前では、巨大な鮒は威張り散らした姿のまま臨終を迎えるのだろうか。

我が国に目を移せば、岸田内閣の「異次元の少子化対策」というものは「低次元の少子化対策」だったと落語のオチのような笑いを誘っている。東京都も同様だが、統一選挙が近づいてスローガンで民衆を引っ張ろうとする野心が露わになり、育児支援というものもがさも少子化対策に直結していると国民に勘違いさせようとする姿は滑稽だ。



少子化は国力を弱めるというのは確かだろう。国力が弱まることと、消費が鈍化することとは別だと思うが、高齢化する国民の福祉維持を考えれば少子化は避けたい事実だ。国力維持の切り札を移民に見つける者がいても不思議ではないし、夫婦間の多産を奨励する政策こそ重要と主張する者がいても不思議ではない。人口の増減は大きな周期で繰り返して

デイサービス難民が増える予感

介護保険の充実で、各地で小規模なデイサービスが盛んになっている。約二十年前からの流れだが、廃業したコンビニやテナントビルの中にデイサービスが誕生し、介護士やヘルパーと看護師や栄養士が常駐する都市型の完成したスタイルになっていた。どこの施設でも十人から三十人程度の老人を預かり、専用車で送迎もしていた。

しかし、建物が老朽化している施設では耐

おり、平均寿命とのすり合わせもあるが、人間の努力でどうなるものでもなさそうだ。

戦争、疫病、天変地異というのが人口減少の三大要素だと言われているが、被害の拡大は政治の責任だと言われている。頭の腐った鯛は、その体を回復させることなど出来ないのではないか。上層部、指導層の責任というのは、多数決主義の民主国家にとって致命的な問題である。独裁、専制国家の場合には、簡単な暗殺やクーデターで政治は一八〇度の方向転換を気楽に行なう。自分たちの生活には責任を感じていても、世界や歴史に責任を感じるような指導者はいない。まして、体中が蛆虫だらけであっても、腐った鯛やイワシたちは泳ぎ続けるのである。海の中に蛆虫をばらまきながら。

アダムとイブから人間が始まったのかどうかは知らないが、始まりのあるものは必ず終わる。これは「絶対」である。始まって終わらないものは無い。つまり、人間というホモサピエンス種は必ず絶滅することになっている。永遠などというものは無い。

我々は、少しでも長く平和に暮らせる時代が続くように努力するのが使命だ。その為に何をしなければならぬかを考えることが、政治であり、上層部、指導層の責務なのだ。それを支え、認め、従うのが一般庶民と呼ばれる国民なのだ。腐った頭の鯛の身では、余りに情けないではないか。小さくても、頭の腐っていない鯛であり続けるために、国民は真剣に日本を守り続けたいものだ。

震性に問題があるとして補強工事が命じられている所や、プレハブ等では消防法上の問題があるなどして、各地で施設の閉鎖や休業が始まっている。建て替えの財源が無い所は廃業しなければならず、立て替えや補強工事が可能な所でも休業を余儀なくされている。

問題は、その施設に通所利用している老人を預かってくれる新たな施設が無いという現実だ。どこの小規模デイサービス施設でも、

ほとんどが満員の状況なのだ。新たに詰め込むわけには行かないのだ。

また、仮に遠方の施設で受け入れがOKとなっても、そこまで送迎できるかどうか疑問が残る。本院が嫌がる場合もあり、ケアマネージャーは頭を抱えている。

介護業界は決して無くならないだろうが、難しい問題を抱えている。例えば訪問介護のヘルパーは、約七割以上がセクハラ、パワハラ



ンケート結果は示しているし、その中の二割以上が被害届を提出するほどの被害を受けている。アメリカでは、訪問介護は二人以上で行くことが決められているが、日本では人員不足で不可能になっている。一人で女性ヘル

奈良公園の鹿は大和朝廷直系

福島大学の研究チームが調査したところ、奈良公園の鹿は古代からの独自の遺伝子を持つということが明らかになった。

春日大社の神様のお使いと呼ばれる奈良公園の鹿だが、どうやら一四〇〇年以上前から独自のコミュニティを形成していたようだ。大和朝廷から続く保護政策もあり、奈良公園の鹿は一度も滅びず、混血が進んでも遺伝子を書き換えられるほどの展開は無かったようだ。



調査では、古墳時代の頃に紀伊半島全体を縄張りとしていた鹿の集団があり、それが奈良公園グループと紀伊半島東部、西部という三つのグループに分かれたことが証明できるそうだ。奈良公園の鹿は、春日大社が創建されてから一度も狩猟対象になっていない事実は大きなポイント

パーが訪問すると、悪質な爺さんは悪戯するそうだ。それも度が過ぎて警察沙汰になる事も度々起こっている。するとヘルパーになる女性はいなくなる。ただでさえ安い賃金で働いている所に、利用者の所までの交通費も時間もカウントされない法律なのだから、優しい気持ちだけでは限界がある。

フィリピンやインドネシアからヘルパー女性を入れる案を出している国会議員もいるが、まず会話が出来なければビザも下りないことを考えるべきだ。

デイサービスは施設建物と人員不足の問題で見通しは明るくない。利用者の老人たちは、通所している施設が閉鎖されれば行くところが無くなるかもしれない。そうなれば、いくら介護保険が充実していると言っても、デイサービス難民になってしまふのだ。

この問題は早急に政治問題化すべきである。だ。縄張りを紀伊半島の東西にする集団は、歴史的に狩猟対象であり続けたので、人を見れば逃げる。奈良公園の鹿は、人を見れば寄ってくる。野生が変化するのは、かなり何代にも続く遺伝がなければあり得ない。

紀伊半島には日本オオカミも戦前までは居たそうだが、人が駆逐して絶滅した。オオカミは奈良公園に行けば人に殺されるから近づかず、結果的に奈良公園の鹿は天敵さえ克服できたのだ。

大和朝廷が春日の神様のお使いだと認定したからこそ、奈良公園の鹿は一四〇〇年以上の独自発展を続けてきたのだ。これを信仰の力と呼んでも差し支えないが、現代科学が大和朝廷と春日大社の「鹿の保護政策」を裏付けた意味は大きいだろう。

台湾は「中華連邦」を模索する

台湾の元副総統である呂秀蓮が世界日報のインタビューに答えて、台湾の現状と行く末

について語っている。

彼女は刑務所生活も経験している筋金入り

の民主派であり、李登輝元総統が最も信頼していた女性政治家と言っても過言ではない。二期八年の副総統在任中、台湾を西側先進国の一員として位置づけることに腐心した功績は大きい。

インタビュで語っていることで特に目を引くのは、「中華」という大きな括りで考えるという平和的アジア論である。習近平が台湾を「統一」と言っているのは、彼が逃れられない「中国」という呪縛に原因があると喝破している。歴史的に中華と呼ばれた大陸地域の民族が、いくら混血し国境を隔てたとしても、EUのような軍事以外の連邦を形成することは可能だとして、習近平の中共が自縄自縛している「一つの中国妄想」を嗤う。

呂秀蓮は、台湾が日本だったことを肯定した上で、それは「下関条約によって、清が日

本部、地方事務局活動報告

■関西事務局

◇二月十一日(土・祝)

・午後一時十分より、奈良橿原神宮にて「紀元節奉祝・橿原神宮本殿正式参拝」を行なう。党員・有志やその家族ら約十五名が参加。阿部顧問による代表参拝・玉串奉奠、谷田関西事務局長による祈願文奉読。午後二時頃終了、解散した。

【祈願文】

建國紀元の佳節に当たり、大日本生産黨関西管下の黨員有志一同、橿原神宮の御神前に、謹みて、皇國日本の彌榮を祈願し奉る。

昨年是国内、国外を問はず萬人に地球規模の異變を感じさせる激動の年であった。露西亞が「一日で終はらせる」と豪語したウクライナ制圧は、世界を二分して泥沼の戦争に発展し、いまや國聯の機能は無に等しい。第三期目を迎へた中國の習近平總書記は公然と臺灣併合を囁き、尖閣諸島周辺の我が國領海へ聯日武裝船舶を侵入させてゐる。

不幸中の幸ひと言ふべきか、これら世情の著しい變化は、わが國民の危機意識の昂まりを招來し、幻想の平和論は影を潜めては居る。されど現實として、我が防衛力を顧みれば、法的整備もさること乍ら民間防衛構想も、非常時に備へるべきシェルタも未だ無きに等しい。今この

本に台湾を割譲したからだ」と割り切る。その上で、その日本が連合軍に破れて台湾領有権を放棄したが、特定の国に譲渡したのではないのだから、その台湾が独立した民主的選挙を経て政府を構成したことにより「台湾は独立した」のだと断定する。

このインタビュは、習近平に対するヒントを投げ与えた気配がある。つまり「中華連邦」というEUのような枠組みを考えるのなら、西側先進国も台湾自身も話し合う余地があると言うものだ。

薄っぺらい政治評論家や学者が言っている話ではなく、元副総統の呂秀蓮の言葉であり、重みが違う。日本人に多い「台湾びいき」も、ひいきの引き倒しになる危険性を考えておく必要がある。台湾は現実主義者であり、「中華連邦構想」は現実味がある話なのだ。

情況下で臺灣有事が現實となれば、我が國がその最前線となるだろうが、大手メディアはこの差し迫る危機を報道せず故意に隠蔽したままである。

一方、国内情勢の混乱の中、腰の定まらぬ首相や内閣、海外投資家に奪はれた産業經濟、長年第一次産業を

蔑ろにした結果の食糧自給率低下、人工減少や移民受入れなど將來への不安を肌で感じる若年層の怒りは、地鳴りの如く国内を覆つてをり、新たな日本回歸の潮流はもはや止められない。かかる内憂外患を抱えつつも國民は其處に一縷の望みを託するものであり、我らもまた身を挺して奔騰する所存である。

此處に我等有志は決意を新たにし、神武建國の精神に立ち還り維新日本の建設のために努力、邁進することを御神前に誓ひ、重ねて皇國の彌榮を祈願し奉る。

皇紀二千六百八十三年 令和五年二月十一日

大日本生産黨関西事務局 並びに有志一同

